

理科(化学) 授業指導計画

授業者 麻植 優人

- 1 日 時 令和4年2月9日(水) 5限
- 2 実施場所 24HR教室(南館3階)
- 3 H R 24HR
- 4 生徒観 授業は熱心に取り組むことができ、話し合いなども活発に行うことができるが、学力差が大きく、苦手意識を持つ生徒も少なくない。「なぜ、そうなるか」など今まで習った化学の内容と繋がっていない生徒が多い。
- 5 単 元 窒素とその化合物
- 6 本時の目標 ①無機化学の反応が酸化と還元や酸・塩基などに関連があることを理解する。
②アンモニアの収率を上げるための条件を話し合い、表現できるようにする。
- 7 本時の展開

	指 導 事 項	留 意 点
導入 (5分)	窒素を使った物質にはどのようなものがあるのか考え、発表させる。	化学基礎や中学校理科で習ったものを連想させる。
展開1 (15分)	遊離反応やハーバー・ボッシュ法などアンモニアの発生方法を説明する。	
展開2 (20分)	アンモニアの収率を上げるために、温度や圧力などの条件をどうすればいいのか、話し合わせる。	ルシャトリエの原理など、化学平衡に関連していることを理解させる。
まとめ (10分)	アンモニアが化学肥料など身近なところで使われているなど、アンモニアの収率を上げることがなぜ大事なのか説明する	